

St. Luke's International University Repository

『NOTES ON NURSING』第2版（看護覚え書）の読み方の試み: 対の視点からの文体論的分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 恵美子, Kimura, Emiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014865

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



— 原 著 —

『NOTES ON NURSING』第2版（看護覚え書）の読み方の試み — 対の視点からの文体論的分析 —

木 村 恵美子¹⁾

要 旨

研究の目的は1. 看護婦向けに書かれた『NOTES ON NURSING』（第2版）における対という言語表現に着目した文体論的分析を行ない、対の言語表現の存在とその対が持つ意味を検討すること、2. 対という視点から『NOTES ON NURSING』（第2版）の読み方の特徴を明らかにすることである。対象となる定本は『NOTES ON NURSING』（第2版）の原文であり、分析対象としたテキストはフロレンス・ナイチンゲール著、小林章夫、竹内 喜訳：『看護覚え書 対訳』、うぶすな書院、1998. である。分析手続きは、①抽出基準を基に本文中の対の言語表現を抽出し対のデータベースを作成し、②その中から意味の通じる最小単位の対を選択し、③対の読み方カードとナイチンゲールの考えとの関連を検討した。結果及び考察：対のデータベースは、総数463件（全章に存在）、1頁当たりの平均 4.2 ± 0.87 件であり、対の読み方カードは総数209件（全章に存在）、1頁当たりの平均 1.9 ± 0.79 件であった。抽出基準別にみる対の読み方カードの割合は、句は42.1%（88件）、節は33.5%（70件）、単語は13.4%（28件）、その他は11.0%（23件）であった。対の読み方カードの持つ意味を明らかにするため、本文中でナイチンゲールの考えが集約されている箇所 What is a nurse?（看護婦にとっての A、B、C）と対の読み方カードとの関連を検討した。その結果、対の読み方カードは A（52.2%）、B（40.2%）、C（7.6%）の割合で対の表現箇所が全て属していた。よって言語表現としての対の中にもナイチンゲールの考えが反映していると推察できた。

看護覚え書を対の視点から読む特徴は①1頁平均2件で、対は注目することのし易いこと、②対はナイチンゲールの考えを反映していること、③対そのものが問いかけの意と考え方のヒントになること、が示された。以上のことから、対の視点から『NOTES ON NURSING』（第2版）を読むことは、読み方の選択肢の1つになりうる可能性が示された。今後対を視点とした『NOTES ON NURSING』（第2版）の読み方の特徴が実際に有用であるかどうかを確かめることが課題である。

キーワード

看護覚え書 ナイチンゲール 対の視点 古典 文体論的分析

I. 研究の背景と目的

本研究の出発点は『看護覚え書』を手にした時、副題の“What It Is and What It Is Not（看護であること、看護でないこと）”を見て、これは“対（コントラスト）”の形ではないか？と気づき、この対の形の表現はナイチンゲールが何かの強調を意図としているのではないかと考えたことである。というのは、ある作家が作品に書き表すその作家らしい独特な言語表現の手法や特徴に焦点を当て、自分の思想や感情を表現する為にどのような用語や構文を文法内でどのように使っているかという文

体論研究¹⁾で Oscar Wilde (1854~1900) の作品を取りあげた²⁾経緯があった。その中で「コントラスト」（以下“対”とする）の使い方にも言及した。対は文学的視点から、「鮮明でわかりやすい、象徴としての機能も働きやすい、心を与えるインパクトも強くなり、構造の枠ともなる」^{3) 4)}等、一般に認められている。つまり、対は何かを強調するという効果があると考えられる。それ故副題の What It Is and What It Is Not という対表現にナイチンゲールの意図を感じられたのである。そしてもし、ナイチンゲールが副題に“対”を意図して用いたとすれば、本文中にも“対”を用いていることが想像された。

このような経緯から『NOTES ON NURSING』の文中の対という言語表現に注目し、対で書かれてある部分を抽出し分析すれば、ナイチンゲールが意図的に伝えた

受付日2001年2月1日 受理日2001年4月23日

1) 青森県立保健大学

かったものが浮かびあがって来るのではないかと考えた。

これまで看護覚え書の副題に対しては、金井の『看護の創世記において「看護であるものとなないもの」という発想をするには看護であるものないものを判定する視点や基準を、自己の内に明確に持っていることが前提になっている』⁵⁾という対表現の内容の深さに注目しているものと、「対立概念を挙げ、その対立や矛盾を通して、その統一をはかり、それによって一層高い境地に進むという弁証法的な思考過程が彼女にはしばしば見られる。」⁶⁾等があった。しかし文献検索の範囲(“ナイチンゲール”“看護覚え書”“対”をキーワードとし、CINAHL 1997-1999、医学中央雑誌 CD-ROM 1988-1999、各大学紀要、ナイチンゲール著作などから検索)では対の表現に着眼した研究はなかった。

『NOTES ON NURSING』が書かれ、約140年の時が経た現在も看護界に本書は大きく貢献している。このことは、「古典と呼ばれるものの書物は、ただ昔から読み継がれてきただけでなく、その中味が現代に生きるという質の面での素晴らしさを内に持つ」⁷⁾ということを意味していると考ええる。

小川は「ナイチンゲールの言葉や句は看護婦らによってもっと引用されるべきであろう。そのためには原文が余すところなく分析され、できるだけ多くの看護に関する言葉や句が取り出され、提示される必要があるだろう」⁸⁾と看護覚え書の言葉に注目されるべきことを強調している。

そこで本研究の目的は1. 看護婦向けに書かれた『NOTES ON NURSING』(第2版)における対という言語表現に着目した文体論的分析を行ない、対の言語表現の存在とその対が持つ意味を検討すること、そして2. 対という視点から『NOTES ON NURSING』(第2版)の読み方の特徴を明らかにすることとした。

II. 用語の定義

1. 対(コントラスト)

一般的に認められている互いに対等の関係にあり、相反する意味の言葉、例えば高い低い、男女、生死、あるなし、前後⁹⁾等と、事柄の相対するような言語表現、また本文中の例として一句の対: [outlet for the impure air: inlet for the pure air] (汚れた空気の出口: 清浄な空気の入り口) や節の対: [A good nurse gets the patient into a good habit, such as washing and dressing a different times so as to spare his strength.: A bad nurse succeeds, and the patient adopts her bad ways without a struggle] (優れた看護婦は患者の体力の消耗を軽減する為に身体を洗う時間と包帯交換の時間をずらせるというように良い習慣を身に付けさせる: 駄目な看護婦は続けざまに行い、患者は抵抗もせず受け入れる) 等とする。

2. 文体論的分析

文体論とはある個人の話者や作家が自分の思想や感情を表現するためにどのような用語や構文を選択し、それを文法内でどのように使っているかの研究を指すものである¹⁰⁾。本研究では文体論に準じ、対という言語表現のみに注目した分析であるので、文体論的分析とした。

3. 対のデータベース

抽出基準を設定し、『NOTES ON NURSING』(第2版)の序章～終章の全文から抽出した対の言語表現を指す。

4. 対の読み方カード

対のデータベースから、その対の言語表現のみで「意味の通じる最小単位」のもの、言い換えれば、対それ自体を読めばどのような状況か、何を指しているのかが解るものということである。例えば、[sick: well] は文脈がなくても単語だけで理解できるので対の読み方カードとしたが、[increased: diminished]、[open: close] [a good ending: a bad ending]、等は何が increased で diminished なのか? どこが open し、close なのか? さらにどのような話が good で誰に対して bad な話なのか? これらの対だけを読んだだけでは分からない。従ってこのような対は読み方カードには含まれない。

III. 研究方法

1. 分析方法

本研究は『NOTES ON NURSING』(第2版)原文を定本として、対の言語表現の視点から分析する方法であり、文体論的なアプローチに準ずる(図1)。

2. 分析手続き

第1段階

テキストの選択……フロレンス・ナイチンゲール著、小林章夫、竹内 喜訳:『看護覚え書 対訳』, うぶすな書院, 1998. (以下“対訳本”とする) 序章、1章～13章、終章、補章の WHAT IS A NURSE? まで対象とする。

第2段階

序章から終章における対の抽出。

抽出基準(節、句、単語、その他)を用いて対を原文・訳文で選び、対1件につき1枚のカード化(コンピューター入力: Claris 社ファイルメーカー TM Pro 3.0)し、対のデータベースを作成する(図2)。なお抽出の留意点を「行を越えて対を成すものも含めるが各章内でまとめること、小見出しは対象外にする、数行の中に同じ対がある場合は1枚のカードにまとめる、対の片方が省略されている比較級は、省略前の形を基準別に分類する」とした。そして対のデータベースから「意味の通じる最小単位の対」として選択したものを対の読み方カードと

研究目的：1. 看護婦向けに書かれた『NOTES ON NURSING』（第2版）における対という言語表現に着目した文体論的分析を行ない、対の言語表現の存在とその対が持つ意味を検討すること、そして2. 対という視点から『NOTES ON NURSING』（第2版）の読み方の特徴を明らかにすることである。

テキスト

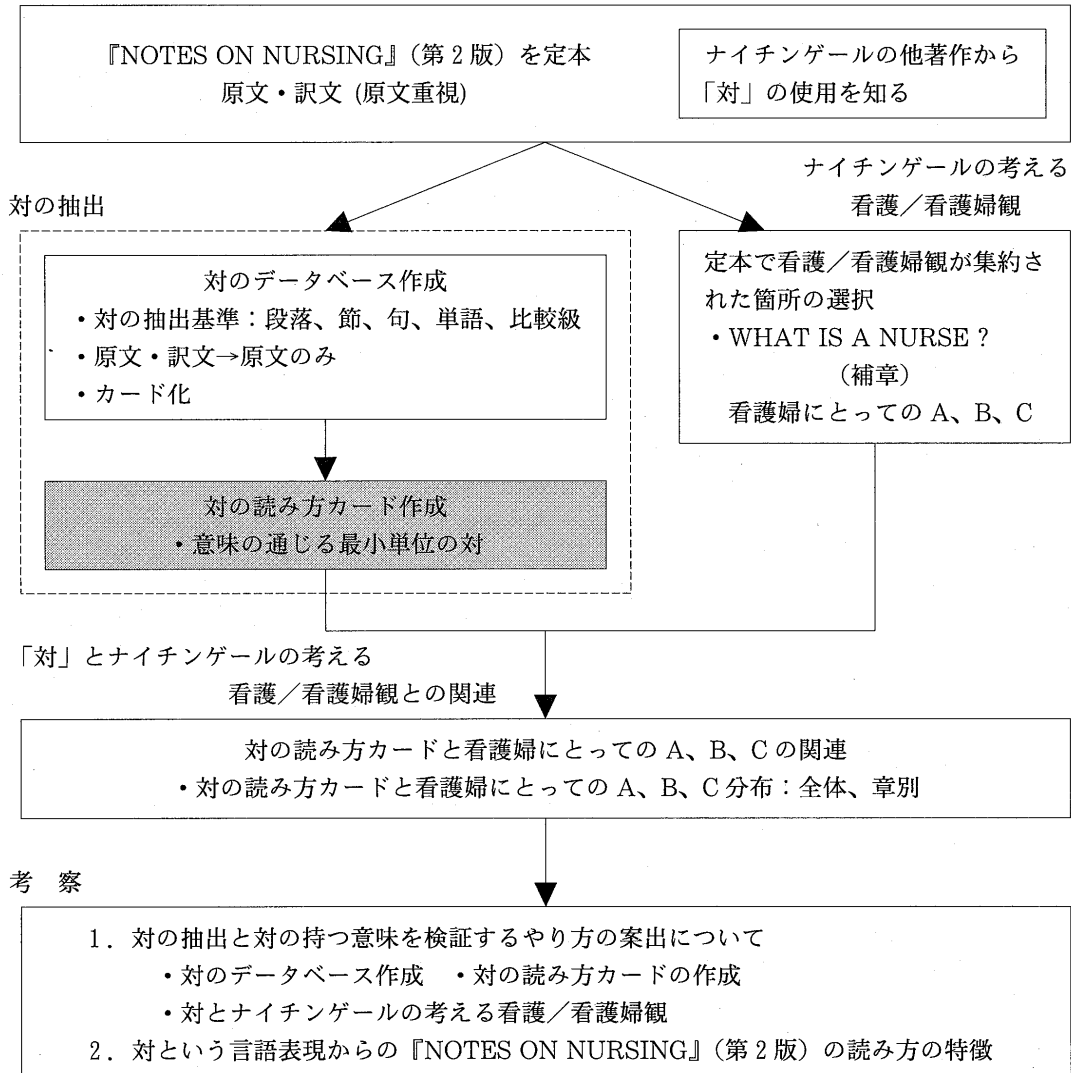


図1 本研究のデザイン

原文用

抽出番号	5	章	序	章内番号	5	行	2-29~30
文種	OS	Ph	●	W	○	U	
訳文番号	4	分類	○	A	●	B	○
原文	If a patient is cold, if a patient is feverish, if a patient is faint, if he is sick after taking food, if he has a bed-sore, it is generally the fault <i>not of the disease, but of the nursing.</i>						
コメント							
備考							

訳文用

抽出番号	4	章	序	章内番号	4	行	3-26~28
文種	OS	Ph	●	W	○	U	
原文番号	5	分類	○	A	●	B	○
訳文	患者の身体が冷えたり、熱が出たり、めまいを起こしたり、食事の後に気分が悪くなったり、褥創ができたりするのは、たいていは病気のせいではなく、看護に問題があるのです。						
コメント							
備考							

図2 対の規定カードのレイアウト

表1 テキストにおける対の分布 (対のデータベースと対の読み方カード)

章 名	対のデータベース (%)	対の読み方カード (%)	対のデータベース 1 頁当たりの対件数	対の読み方カード 1 頁当たりの対件数
序章	13 (2.8)	10 (4.8)	3.3	2.5
1 章：換気と保温	57 (12.4)	36 (17.2)	4.8	3.0
2 章：住居の衛生	35 (7.6)	8 (3.8)	3.2	0.7
3 章：小管理	37 (8.0)	20 (9.6)	4.6	2.5
4 章：音	55 (11.9)	33 (15.8)	5.0	3.0
5 章：変化	15 (3.2)	7 (3.3)	3.8	1.8
6 章：食事	14 (3.0)	5 (2.4)	2.8	1.0
7 章：どんな食べ物を与えるか	32 (6.9)	12 (5.8)	4.6	1.7
8 章：ベッドと寝具類	17 (3.7)	9 (4.3)	3.4	1.8
9 章：日光	9 (1.9)	3 (1.4)	3.0	1.0
10 章：部屋と壁の清潔	15 (3.2)	7 (3.3)	3.0	1.4
11 章：身体の清潔	9 (1.9)	4 (1.9)	3.0	1.3
12 章：余計な励ましと忠告	26 (5.6)	4 (1.9)	3.7	0.6
13 章：病人の観察	92 (19.9)	39 (18.7)	4.8	2.5
終章	37 (8.0)	12 (5.8)	5.3	1.7
合 計 件 数	463 (100.0)	209 (100.0)	4.2 (±0.87)	1.9 (±0.79)

() 内は SD

する。

第3段階

テキストの中からナイチンゲールの看護観が集約している箇所を選出する。本研究では補章 WHAT IS A NURSE? : 看護婦にとっての A、B、C の部分を選出する。

第4段階

序章、1～13章、終章の全文より抽出された対の読み方カードと補章の WHAT IS A NURSE? : 看護婦にとっての A、B、C との関連を検討する。

第5段階

対の言語表現を視点とした文体論的分析から、対に注目する読み方の特徴を検討する。

なお、対抽出の信頼性の手続きは、第2段階の対の抽出において、対のデータベースは序章、第1章「換気と保温」、第13章「病人の観察」、そして対の読み方カードは第4章「音」を対象とし、指導教員、基礎看護学領域の教員、筆者が個別に本文中から抽出基準に基づき対を抽出した後、二者間、三者間でその一致率を求めた(87.5%～98.7%)。第4段階の対とナイチンゲールの考える看護／看護観の関連においても、指導教員と筆者の二者間で一致率を求めた(89.0%)。なお第3段階ナイチンゲールの考える看護／看護観の記述箇所の選択は指導教員とディスカッションを重ね、選択した。

IV. 結 果

1. テキストから抽出された対

1) 対のデータベースの出現状況

対の抽出基準に基づき、1つの対を1件とし、量的に

表2 抽出基準別に見る割合
(対のデータベースと対の読み方カード)

抽出基準	対のデータベース (%)	対の読み方カード (%)
句	158 (34.1)	88 (42.1)
単 語	144 (31.1)	70 (33.5)
節	92 (19.9)	28 (13.4)
その他	69 (14.9)	23 (11.0)
合計件数	463 (100.0)	209 (100.0)

算出した。データベース総数は463件で全章に分布していた(表1)。1頁当たり平均4.2±0.87件であった。抽出基準別の割合は句34.1%(158件)、単語31.1%(144件)、節19.9%(92件)、その他14.9%(69件)であった。

2) 対の読み方カードの分布状況

対のデータベースから“意味のとれる最小単位の対”として選出した対の読み方カードの総数は、209件で全章に分布し、1頁当たりの平均1.9±0.79件であった。抽出基準別にみる対の読み方カードの割合は、句42.1%(88件)、節33.5%(70件)、単語13.4%(28件)、その他11.0%(23件)であった(表2)。句と節で対の読み方カードは、全体の約7割を占めていた。

3) 対の読み方カードの用例

用例は対を[:]内に示し、対の訳文を書き、対を含む前後の原文を示し、その対部分に下線を引いた(YC: 読み方カードを指す)。そしてその原文の頁数と行数、章を【 】の中に示した。

(1) 節の用例

a: 節-YC [that the majority of cheerful cases……: that the majority of depressed cases] (朗らかな患者の大部分はその苦痛の種類が何であれ、一つの部屋に閉じこめられていない人たち: 意気消沈している患者の大部分は長期に渡って単調な環境を強いられてきた人たち)

I incline to think that the majority of cheerful cases is to be found among those patients who are not confined to one room, whatever their suffering, and that the majority of depressed cases will be seen among those subjected to a long monotony of objects about them. 【94-8~12-5章: 変化】

(2) 句の用例

a: 句-YC [Poisoning by the skin: poisoning by the mouth] (皮膚からの毒物: 経口の毒物)
Poisoning by the skin is no less certain than poisoning by the mouth-only it is slower in its operation.

【152-10~11-11章: 身体の清潔】

b: 句-YC [for the sake of pilling up miscellaneous information or curious facts: for the sake of saving life and increasing health and comfort] (雑多な情報や奇異な事実を積み重ねるため: 人命を救い、健康と安楽を増進するため)

It is not for the sake of pilling up miscellaneous information or curious facts, but for the sake of saving life and increasing health and comfort. 【206-6~8-13章: 病人の観察】

(3) 単語の用例

a: 単語-YC [within: without] (室内の空気: 室外の空気)

Without cleanliness, within and without your house, ventilation is comparatively useless. 【38-6~7-2章: 住居の衛生】

b: 単語-YC [on the mind: on the body] (気分的なもの: 身体)

People say the effect is only on the mind. It is no such thing. The effect is on the body, too. 【94-30~31-5章: 変化】

(4) その他の用例

a: その他-YC [weaker: stronger] [this visit: he was at the last visit.] (元気になっているかどうか) (今回の診察: 前回の診察)

The utmost the medical man can tell is whether the patient is weaker or stronger at this visit than he was at the last visit. 【120-2~4-7章: どんな食べ物を与えるか】

4) 対の読み方カードと対のデータベースとの関連

対の読み方カードは対のデータベースの約半数を占め(表3)、抽出基準別に検討すると、節76.1%で、句55.7%で、節と句の選出割合が約6割以上で、単語が約2割

表3 対の読み方カードの選出割合

抽出基準	対の読み方カードの選出割合 (%)	対の読み方カード (YC) / 対のデータベース (DB)
節	76.1	70 / 92
句	55.7	88 / 158
その他	33.3	23 / 69
単語	19.4	28 / 144
総件数	45.4	209 / 463

であった。

2. 対の読み方カードと看護婦にとってのA、B、Cとの関連

対に注目する読み方はナイチンゲールの考えと関連するかどうかを検討する為、同一本中のナイチンゲールの考えが集約されている箇所と対の読み方カードを検討した。その箇所は補章の“WHAT IS A NURSE?”の、

What strikes one most with many women, who call themselves nurses, is that they have not learnt this ABC of nurse's education. The A of a nurse ought to be to know what a sick human being is. The B to know how to behave to a sick human being. The C to know that her patient is a sick human being and not an animal. 【226-27~31、補章】である。

この箇所で ナイチンゲールは「this ABC of a nurse's education」と書いており、看護婦教育の基本的なイロハに当たるという意味を指すと考えた。すなわちA: 病気の人間はどのようなものであるかを知ること、B: 病気の人間に対していかに行動すべきかを知ること、C: 患者は病気の人間であって動物ではないのだと知ること、である。またこの箇所は3つのA、B、Cが意味的に並列で簡潔に表現されていること、聖トマス病院看護婦養成学校において看護婦教育の基本を学ぶに当たり、この第2版をテキストとして使っていたこと¹¹⁾、『NOTES ON NURSING』のキーワードである¹²⁾というhuman beingがA、B、Cそれぞれに使われていること等の理由で選択した。

1) 看護婦にとってのA、B、Cと対の読み方カードの用例

(1) 看護婦にとってのAと関連した読み方カードの用例

A-1句YC [a physiognomy of disease: of health] (病気の顔つき: 健康な顔つき)

Another remark: although there is unquestionably a physiognomy of disease as well as of health; 【188-16~17-13章: 病人の観察】

A-2節YC [One likes to suffer out all his suffering alone……: Another likes to be perpetually made much of……] (苦痛はじっと一人で抱え込んで出来

る限り他人の世話にはなりたくない患者：いつも何やかやと構われ、同情されるのを好み、誰かに傍にいてもらいたがる患者)

One likes to suffer out all his suffering alone, to be as little looked after as possible. Another likes to be perpetually made much of and pitied, and to have some one always by him. 【190-23~25-13章：病人の観察】

(2) 看護婦にとってのBと関連した読み方カードの用例

B-1 節 YC [The pillows, in fact, lean upon the patient: the patient upon the pillows] (枕が患者に寄りかかっている：患者が枕に寄りかかっている)

The pillows, in fact, lean upon the patient, not the patient upon the pillows. 【134-5~6-8章：ベッドと寝具類】

B-2 節 YC [what nursing has to do in either case, is to put the patient in the best condition for nature to act upon him: Generally, just the contrary is done] (どちらの場合にも、看護がなすべきことというのは、自然が患者に働きかけるのを最も良い状態に患者をおくことなのです：たいていはこれと反対のことが行われています)

And what nursing has to do in either case, is to put the patient in the best condition for nature to act upon him. Generally, just the contrary is done. 【218-36~38-終章】

(3) 看護婦にとってのCと関連した読み方カードの用例

C-1 句 YC [utensil without a lid: one with a lid.] (蓋のない室内用便器：蓋付き便器)

The use of any chamber utensil without a lid should be utterly abolished, whether among sick or well. You can easily convince yourself of the necessity of this absolute rule, by taking one with a lid, and examining the under side of that lid. 【28-40~30-2-1章：換気と保温】

C-2 節 YC [Music, to the well, who ought to be active, gives the enjoyment of active life, without their having earned it: Music to the sick, who cannot be active, gives the enjoyment and takes away the nervous irritation of their incapacity.] (もともと活力のある健康な人間にとって音楽は、自然に身に備わっている活気あふれる生命の喜びを味わわせてくれるものです：活力の衰えている病人にとっては音楽はまさに喜びを与え、無力感への苛立ちを取り去ってくれる存在なのです)

Music, to the well, who ought to be active, gives the enjoyment of active life, without their having earned it, Music to the sick, who cannot be active, gives the

enjoyment and takes away the nervous irritation of their incapacity. 【92-32~33-4章：音】

2) 対の読み方カードと看護婦にとってのA、B、Cとの関連性

対の読み方カードの内容1件毎に、看護婦にとってのA、B、Cのどの領域に含まれるかを検討した。その結果対の読み方カード209件は、看護婦にとってのA“病気の人間はどのようなものであるかを知ること”に109件(52.2%)、B“病気の人間に対していかに行動すべきかを知ること”は84件(40.2%)、C“患者は病気の人間であって動物ではないのだと知ること”には16件(7.6%)が分類され、AとBの割合は全体の約9割を占めていた。

V. 考 察

1. 対の抽出と対の持つ意味を検証するやり方の案出過程について

1) 対のデータベース作成

(1) 対の抽出基準の設定

抽出基準は、①パイロットスタディ(1999年2~4月、序章、1章、13章、補章)で対を抽出し、それらを基にしたこと、②副題のWhat it is and What it is notは節の形であること、③文中からの抜粋としてナイチンゲールの言語表現をそのまま生かしたかったこと、④宮内の語法と文体(対句表現等)から分析した研究¹³⁾等を参考にした結果、「節」、「句」、「単語」、「その他(比較級等)」を設定した。この設定は“漏れなく、広く”対を拾う為の対の抽出作業に有効であり、そして対のデータベースを作成する際は、どのような抽出基準を設定するかの重要性を知らされた。

(2) 対抽出の実際で生じた問題への対処—その言語表現が対であるのかないのか

対抽出過程で、高い—低い、多い—少ない等の程度性、肯定—否定や生と死、男女等の補完性を持つ対(polarity)は選び易かった。しかしナイチンゲールが看護についての自身の考えや看護場面等からある2つの事柄を対で表現したものは、原文の意味から読みとり、判断していかなければいけない場合が多かった。またナイチンゲールの言語表現には「あるからといって良いわけではなく、ないからといって他のものがあったても用を足さない」というものが多かった。

例えば、

YC [not that the habit of ready and correct observation will be itself make us useful nurses,; but that without it we shall be useless with all our devotion.] (正確な観察力さえ身につけていれば有能な看護婦であるということにはならない：正確な観察力を抜きにしてはどんなに献身的であろうと看護婦の役目は果たし得ない) For it may safely be said, not that the habit of ready and correct observation will be

itself make us useful nurses,; but that without it we shall be useless with all our devotion. 【182-30、13章：病人の観察】

のように、ナイチンゲールはどちらともつかない書き方をしていた。対とすればいいのかどうか手続きとして迷った箇所は指導教員と確認し、一致する手続きを取りながら進めた。

2) 対の読み方カード作成

抽出されたデータベースの対は本文中の全章に存在したが、対に注目して読むことに値するものとししないものの対が混在していた。そこで対に注目して読むことに値する対を選択する必要が生じた。「各々の語句・構文は文脈の中でそれぞれの存在意義がある。……ある語の語意・語感全体との統一や調和を考慮した上で与えられているはずである」¹⁴⁾ と言うように対を拾うことが文脈を離れないようにすることを考え、“意味の通じる最小単位の対”という基準を設けた。

『NOTES ON NURSING』は古典であるので、ナイチンゲールに確認出来ないが、“意味のとれる最小単位の対”という基準は、対のデータベースからの作業として可能であった。今後もどのような基準を設定するかは課題の1つとして残された。

3) 対とナイチンゲールの考える看護／看護婦観との関連

『NOTES ON NURSING』(第2版)の中で、ナイチンゲールの考えを指していることと確認出来る箇所を探す努力をした。この過程の中で、序章の I do not pretend to teach her how, I ask her to teach herself, and for this purpose I venture to give her some hints. 【ii、はじめに】に本章の目的はヒントを与えると書かれており、看護婦向けに書かれた補章にナイチンゲールの考えが集約されているのではないかと考えた。そして看護婦にとっての A、B、C が選択され、対の読み方カードとの関連が検討された。その結果、対の読み方カード全てが看護婦にとっての A、B、C のいずれかに属していた。

このように対の視点からの読み方は、ナイチンゲールの考えが知らされる可能性のあることが示唆され、そして対はナイチンゲールの考えを反映しているということが推察できた。しかしここで“ナイチンゲールの考え”という言葉を用いたが、本論文の中では看護婦にとっての A、B、C をナイチンゲールの考えとして論を進めた経緯があり、何を持ってナイチンゲールの考えとするかは問われる大きな課題でもある。

2. 対という言語表現からの『NOTES ON NURSING』(第2版)の読み方の特徴

特徴1. 対に注目することのし易さ

対の読み方カードは、総件数209件で全章に分布し、1頁あたりの平均 1.9 ± 0.79 件、抽出基準別では句88件(42.1%)、節70件(33.5%)、単語28件(13.4%)、その

他23件(11.0%)であった。対が全章に分布していたことは読み進む際、対に注目して読んで行くと全章読むことになり、そして対の読み方カードが1頁あたり約2件という出現頻度は、読み進む上でたやすいと考えた。また対の読み方カードの抽出基準別において、節と句で全体の約7割を占めたことは、読み進む際に節と句の対に注目すると良いという目安となると考え、対の視点での読み易さを示していると解釈できた。『NOTES ON NURSING』は古典であるので著者に何を主張したかったのかを確認できないが、1冊の本全体に著者の主張があると考え、全章読むことは著者の考えを知ることにつながり、『NOTES ON NURSING』を対で読むことはこのような古典の読み方の選択肢の一つとなると考えたい。

特徴2. 対はナイチンゲールの考えを反映する

対の読み方カードが看護婦にとっての A、B、C のどの領域に含まれるかを検討したところ、看護婦にとっての A は109件(52.2%)、看護婦にとっての B は84件(40.2%)、看護婦にとっての C は16件(7.6%)の割合で属しており、またこれら A、B、C は各章にほぼ分布した。対の読み方カードはナイチンゲールのいう看護婦教育のイロハである基本的な事柄と関連があることが示された。故に対の読み方カードは、ナイチンゲールの考えを反映していると解釈した。

特徴3. 問いかけとしての対

抽出作業を進める際、対を見つける度に、あなたはどうか考えるか? と常にナイチンゲールに問われているようだと感じていた。このことを発展させて考えると、これは対に注目して読み進めることは、ナイチンゲールの考えがつかめるのではなくて、対の視点からの読み方においては、その示された対に対して読み手自身が看護について考える、言い換えれば対をもってあなたに問うということではないかとも考えられた。対を一つの看護場面として捉え、このような時私はどうとらえ、どう考えるかと自分自身に問いたただすのである。したがって、読み手それぞれの看護観に照らし合わせながら、気にかかった対の言語表現について考えていくことが望ましいのではないだろうか。以上のことから、209件の対はナイチンゲールが読者に示した「問いかけ」であるとも考えられた。

今後の課題としては、ナイチンゲールの考えがそのまま生かされ文意がつたわるようにどこまでを対とするかということ、そして対を視点とした読み方の特徴の有効性を検証することである。

VI. 結 論

『NOTES ON NURSING』(第2版)原文を定本とし対という言語表現に着目した文体論的分析を行い、対の言語表現の存在とその対が持つ意味を検討した。その結果『NOTES ON NURSING』(第2版)における対

の出現状況と対を視点とした読み方の特徴が明らかとなった。

1. 対の言語表現の存在

対のデータベースは総件数463件（全章に分布）、1頁当たり平均4.2±0.87件であった。そして「意味の通じる最小単位の対」という条件でデータベースから選択した対の読み方カードは総件数209で全章に分布し、本文中全ての章に対の言語表現が存在していた。その出現頻度は1頁当たり平均1.9件であった。抽出基準別では、対のデータベースが句158件（34.1%）、単語144件（31.1%）、節92件（19.9%）、その他69件（14.9%）、対の読み方カードは句88件（42.1%）、節70件（33.5%）、単語28件（13.4%）、その他23件（11.0%）であった。

2. 対の持つ意味

抽出された対はナイチンゲールの考えと関連しているかを検討する為、看護婦にとってのA、B、Cとの関連を検討した。その結果対の読み方カード内容（209件）はA（52.2%）、B（40.2%）、C（7.6%）の割合で含まれていた。したがって対の言語表現とナイチンゲールのいう看護婦教育のイロハである基本的な事柄は関連することが示され、対という言語表現からナイチンゲールの考えが推察できる可能性が示唆された。

3. 対の視点から『NOTES ON NURSING』（第2版）の読み方の特徴

1) 対に注目することのし易さ

対の読み方カードは総数209件で全章に分布し、1頁あたり平均1.9件であり、対の読み方カードに注目して読み進むと全章読むことになる。そして1頁あたり平均2件の出現頻度は拾い読みするのにたやすいということが考えられた。対の読み方カードの抽出基準別では、節と句が全体の約7割を占めたことから、読み進む際、節と句に注目すると良いという目安となることが考えられた。

2) 対はナイチンゲールの考えを反映する

対の読み方カード全体は看護婦にとってのA、B、Cの領域に含まれた。よって対の読み方カードを読み進めるとナイチンゲールの基本とする考えを知ることにつながる可言えよう。

3) 問いかけとしての対

対に注目して読み進めることは単に書かれた対の事柄を理解するだけでなく、その対はナイチンゲールからの問いかけであり、その問いに読み手が応え、そして物事を対の両面から見たり考えることを意識化出来るようになることではないかと推察した。

以上のことより、対という言語表現に注目した『NOTES ON NURSING』（第2版）の読み方の選択肢の一つとなりうる可能性が示されたと考える。

謝 辞

本論文をまとめるにあたり御指導下さいました上智大学小林章夫教授、聖路加看護大学小澤道子教授、そして御助言下された多くの皆様方に心より深謝致します。なお、本研究は1999年度聖路加看護大学に提出した修士論文の一部に修正を加えたものであり、第5回聖路加看護学会（大阪、2000年）で報告致しました。

引用文献

- 1) 宮内敦夫：小説の語法と文体，文化書房博文社，iii-15，1996.
- 2) 木村恵美子：Oscar Wilde “Fairy Tales” の世界-9つの物語に含まれているもの，平成9年度日本大学文理学部英文学科卒業論文，1998.
- 3) マックス・リュティ，小澤俊夫訳：昔話その美学と人間像，岩波書店，116-231，1985.
- 4) 森省二他：童話と心の深層，創元社，15-17，1996.
- 5) 金井一薫：ケアの原形・ナイチンゲール看護論を現代に生かす，看護教育，38(10)，808，1997.
- 6) 小川典子：『看護覚え書』の構造を読む，ゆみる出版，57-58，1999.
- 7) 西田 晃：看護覚え書の新しさ，EXPERT NURSE，4(9)，138-142，1988.
- 8) 前掲6)，5
- 9) 岩本 一：読みのポリティク，雄山閣出版，16，1993.
- 10) 前掲1)
- 11) Donahue, Patricia K.: Nursing an illustrated history, C. V. Company, 129, 1985.
- 12) 西田 晃：「看護覚え書」の語句索引をつくって，総合看護，4号,54, 1980.
- 13) 前掲1)，44-59
- 14) 前掲1)，2

***Notes on Nursing* : Stylistic Analysis of Contrasts in the Text**

Emiko Kimura

(Aomori University of Health and Welfare)

The purpose of this study was to analyze stylistically the second edition of 'NOTES ON NURSING' in order to identify contrastive ideas, to examine the meaning of them, and to clarify the new interpretation of those ideas. The analysis procedure which I undertook was ① form a database of contrastive ideas from the text ② create contrastive idea-interpretation cards which explain Nightingale's ideas clearly from the database ③ examine the relationship between the contrastive idea-interpretation cards and Nightingale's ideas, the three most important principles (ABC) for nurses.

The results showed that 463 contrastive ideas appeared in the entire database, an average of 4.2 ± 0.87 ideas per page. There were 209 contrastive idea-interpretation cards, an average of 1.9 ± 0.79 . There was a significant relationship between the contrastive idea-interpretation cards and Nightingale's ABC; quantified as 52.2%, 40.2%, and 7.6% respectively. The new interpretation method reflects Nightingale's ideas, allowing nurses to be familiar with them, guiding nurses to further understanding.

The results indicate that reading the text from the contrastive point of view is an important method of interpretation. Further research will be needed to verify this new approach in the effective use of Nightingale's idea in nursing.

Key words

Notes on Nursing, Nightingale, Contrast, Classic, Stylistic Analysis